

おおさわがわりゆういき こせいかいかせきさんしゅつろとうぐん

大沢川流域の古生界化石産出露頭群

指定種別：市指定文化財

指 定 日：令和6年3月27日

所 在 地：釜石市栗林町

年 代：千丈ヶ滝層露頭

古生代後期シルル紀～後期デボン紀

小 川 層 露 頭 古生代石炭紀

栗 林 層 露 頭 古生代ペルム紀



栗林町の大沢川流域では古生代の化石を産出する露頭が所在しており、大沢川流域の古生界化石産出露頭群は、古生代後期シルル紀からデボン紀の千丈ヶ滝層、古生代石炭紀の小川層、古生代ペルム紀の栗林層の3ヶ所の露頭で構成されています。

露頭の年代はそれぞれの層の一部の時代となりますが、3つの露頭は直径約260mの範囲内に収まっており、約4億2300万年前から約2億5100万年前までの約1億7200万年ほどの間に断続的に形成され、現在地に至っています。

3ヶ所の露頭で観察できる化石を概観すると、千丈ヶ滝露頭では古生代後期デボン紀の日本最古級の植物化石であるリンボクの化石等、小川層露頭では古生代石炭紀の四放サンゴの化石等、栗林層露頭では古生代ペルム紀のフズリナの化石等があげられます。

大沢川流域は、比較的狭い範囲で古生代の約1億7200万年の間に断続的に形成された千丈ヶ滝層・小川層・栗林層の露頭を観察することのできる大変貴重な場所です。





栗林層



小川層



千丈ヶ滝層